

支部長からのお礼のご挨拶

第76回 日本生化学会 中部支部例会・シンポジウムは平成24年5月26日(土)に自然科学研究機構・岡崎コンファレンスセンターで開催されました。参加者総数は205名を数え、大盛況のうちに無事終了いたしました。

シンポジウムでは「タンパク質の翻訳後修飾の役割」と題して、4名の著名な研究者によるご講演を頂きました。大阪大学の木下タロウ先生には「糖脂質 GPI 修飾によるタンパク質の機能制御」、浜松医科大学の瀬藤光利先生と池上浩司先生には「グルタミン酸化修飾の機能」、東京都医学総合研究所の田中啓二先生には「ユビキチンとは何か」、筑波大学の深水昭吉先生には「エピゲノムマーク・アルギニンメチル化の機能的役割」という演題で、分かりやすいイントロダクションと共に最先端研究について熱のこもったご講演を頂きました。会場からは活発な質疑討論を頂きました。多くの学部・大学院学生や若手研究者とシンポジストの先生方が中心となり、素晴らしい支部例会・シンポジウムが実現できたと考えています。

ポスター発表は演題総数65に達し、午前の部で、恒例の1分間の口頭発表で研究概略紹介をして頂いた後、午後の部では、2時間の白熱した討論が繰り広げられました。大変良い研究が中部支部で進展していることが分かりました。この中から秋山智美さん(中部大学)、加塩麻紀子さん(生理学研究所)、大辻陽子さん(岐阜薬科大学)の3名が投票により奨励賞受賞者に選出されました。

総会におきましては、支部の平成24年度の活動報告、会計報告ならびに次期支部幹事投票結果をご承認いただきました。次に、日本生化学会公益法人化後の変化についてご理解を頂きました。次期支部長として名古屋大学の前島正義先生を推薦しご承認いただきました。中部支部幹事の北島健先生から代議員の選出方法についてご説明を頂きました。ポスター奨励賞授賞式を行い、上記の3名の成果を讃えると共に研究の一層の進展をお願い致しました。最後に前島正義先生よりご挨拶と来年度の例会・シンポジウムのご案内をいただき、全スケジュールを終了致しました。

日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにご参加いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。今後の皆さまのご研究の益々のご発展をお祈り致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

平成24年度 日本生化学会 中部支部長
自然科学研究機構・生理学研究所 池中 一裕